BL-15A2/202XG123

**タイトル：英簿テンプレート使用の時は英文のみ、**

**日本語テンプレート使用の時は日本語・英語並記**

**使用したビームラインの名前と番号**

PFアクティビティレポート：ユーザーレポートについて

PF Activity Report: Users’ Report

**著者名は姓名とも綴る**

筑波太郎1, \*, 桜咲2

1高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所, 〒305-0801茨城県つくば市大穂1-1

2東西大学, 〒123-4567 東京都東西市1-1-1

Taro TSUKUBA1, \* and Saki SAKURA2

1Institute of Materials Structure Science, High Energy Accelerator Research Organization, 1-1 Oho, Tsukuba, Ibaraki 305-0801, Japan

2University of Tozai, 1-1-1 Tozai, Tokyo 123-4567, Japan

　アブストラクトはオプションとします。レポートが長い場合等，必要に応じてこの部分に御記入ください。必要のない場合は消去して下さい。

1 はじめに

本テンプレートの赤枠，赤字は消してお使いください。フォント，文字サイズ，行間隔，余白の広さ，カラムの幅など，テンプレートの体裁は変更しないでください。

セクション建ては著者の裁量でお決めください（短いレポートの場合は，セクションを建てなくても結構です）。句読点は「，。」を推奨しますが，「、。」や「，．」でも結構です。ただし，混在使用は避けて下さい。

レポートは，最長6ページです。図表の数は，ページ制限内であれば自由に選択できます。

2 実験

PFアクティビティレポートの著作権は，レポート全体としてはKEKが，各記事単位では著者本人が所有いたします。

本レポートに，投稿論文の図表をそのまま掲載する場合は，論文出版元の著作権に留意して，適切な使用許諾を取ってください。著作権に関連して問題が起こる可能性がある場合には，図表なしでレポートを作成していただいても構いません。

3 結果および考察

本レポートの提出が「実験終了届」の代わりになりますので，実験課題の有効期間中あるいはその後に，一課題あたり少なくとも一報のユーザーレポートの提出が必要となります。

ユーザーレポートは年間を通して，いつでも投稿可能です。投稿の準備が整い次第，速やかご投稿下さい。なお，年度毎にまとめるために毎年一回の締め切りを設定しています。締め切り後に投稿されたレポートは，自動的に次の号に掲載されます。

4 まとめ

皆様のレポートはPFの研究活動を計る重要な物差しであり，PF の支援ひいては皆様の研究環境の改善にも繋がる大切なものですので，この機会に是非ともご寄稿をよろしくお願いします。



図１：これはPFのロゴマークです。

**図はカラー推奨、EPS形式の図を使用する場合はフォントを埋め込むか、文字をアウトライン化して文字化けしないように注意する。**

謝辞

謝辞の項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい [2]。

参考文献

[1] T. Tsukuba *et al*., PF Highlights 2017, 12 (202X).

[2] I. Oho and S. Sakura, *Phys. Rev. Lett*. **120**, 10101 (202Y).

成果

1. 受賞，知的財産権，学会発表等，特筆すべきものがあればご記入下さい。
2. 本成果項目はオプションとしますので必要がなければ消去下さい。

**連絡担当著者の電子メールアドレス**

\* abcd-efg@zzz.jp

**注意事項**

1. **pdf変換の際にはフォントの埋め込みを行ってください。**
2. **ファイル名には日本語は使用せず，スペースも入れないでください。**